

第57集



令和3年度

群馬県小中学校教育研究会
小 学 校 図 画 工 作 部 会
中 学 校 美 術 部 会

群馬県造形美術教育 研究大会一覧

西暦	年度	大会名	開催地	備 考
1989年	平成元年	利根・沼田大会	北毛:利根郡白沢村	
1990年	平成2年	太田・新田大会	東毛:太田市	
1991年	平成3年	佐波・伊勢崎大会	中毛:佐波郡玉村町	
1992年	平成4年	高崎・群馬大会	西毛:高崎市	
1993年	平成5年	沼田・利根大会	北毛:沼田市	
1994年	平成6年	邑楽・館林大会	東毛:邑楽郡板倉町	
1995年	平成7年	吾妻大会	北毛:吾妻郡吾妻町	
1996年	平成8年	藤岡・多野大会	西毛:藤岡市	
1997年	平成9年	前橋・勢多大会	中毛:前橋市	関プロ群馬大会を兼ねる
1998年	平成10年	桐生・山田大会	東毛:桐生市	
1999年	平成11年	勢多大会	中毛:勢多郡宮城村	
2000年	平成12年	甘楽・富岡大会	西毛:富岡市	
2001年	平成13年	利根・沼田大会	北毛:利根郡片品村	
2002年	平成14年	太田・新田大会	東毛:太田市・笠懸町	(夏期)太田市(秋期)新田郡笠懸町
2003年	平成15年	伊勢崎・佐波大会	中毛:伊勢崎市	(夏期)(秋期)伊勢崎市
2004年	平成16年	安中・碓井大会	西毛:安中市	(夏期)(秋期)安中市
2005年	平成17年	吾妻大会	北毛:中之条町	(夏期)(秋期)吾妻郡中之条町
2006年	平成18年	館林・邑楽大会	東毛:大泉町・館林市	(夏期)邑楽郡大泉町(秋期)館林市
2007年	平成19年	渋川・北群馬大会	中毛:(秋期)渋川市	(夏期)本部事務局
2008年	平成20年	高崎大会	西毛:高崎市	関プロ群馬大会を兼ねる
2009年	平成21年	吾妻大会	北毛:(秋期)中之条町	(夏期)本部事務局
2010年	平成22年	桐生大会	東毛:(秋期)桐生市	(夏期)本部事務局
2011年	平成23年	前橋大会	中毛:(秋期)前橋市	(夏期)本部事務局
2012年	平成24年	藤岡大会	西毛:(秋期)藤岡市	(夏期)本部事務局
2013年	平成25年	邑楽大会	東毛:(秋期)明和町	(夏期)本部事務局
2014年	平成26年	太田大会	東毛:(秋期)太田市	(夏期)本部事務局
2015年	平成27年	高崎大会	西毛:(秋期)高崎市	(夏期)本部事務局
2016年	平成28年	沼田大会	北毛:(秋期)沼田市	(夏期)本部事務局
2017年	平成29年	玉村大会	中毛:(秋期)玉村町	(夏期)本部事務局
2018年	平成30年	前橋大会	中毛:前橋市	関プロ群馬大会プレ大会を兼ねる
2019年	平成31年	前橋大会	中毛:前橋市	関プロ群馬大会を兼ねる
2020年	令和2年	夏期研究大会延期	本部事務局	次年度へ延期(新型コロナのため)
2021年	令和3年	夏期研究大会中止	本部事務局	書面提案(新型コロナのため)

はじめに

群馬県小学校・中学校教育研究会

小学校図画工作部会会長 間々田 博

中学校美術部会会長 吉野 忠義

群馬県造形美術教育研究会会長 間々田 博

造形美術教育の振興を目指し、群馬県小学校中学校教育研究会の図画工作部会と美術部会とが合同で本研究会「群馬県造形美術教育研究会」を組織し、造形美術教育に関わる実践的な研究に取り組み、今年で58年を迎えます。本会の組織は、本部役員と県下17地区2名ずつの地区理事、地区評議員とで構成されています。

さて、昨年度、小学校では新学習指導要領が完全実施となり、中学校では今年度より実施となりました。今回の改定では、小学校英語や道徳の教科化とともに各教科においては、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理がされました。この学習指導要領に基づいた教育課程について、各学校では研修をすすめながら実践していることと思います。

また、平成29年度より関ブロ群馬大会の実行委員会を立ち上げ、平成30年度には県内参加者により関ブロ群馬大会プレ大会を研究大会として開催しました。平成31年度（令和元年度）の11月には、関東甲信越静地区造形教育研究大会（関ブロ）群馬大会を開催し、県内外から多数の参加者をお迎えしました。

さらに、教職員の多忙化解消への取り組み等、教育現場を取り巻く大きな流れの中で、関ブロ群馬大会を機に、夏期研修会と秋期研修会を夏期の研究大会に統合しました。このような教育現場を取り巻く流れの中でも、さらに実践を積み重ねていかななくてはなりません。

しかしながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から研究大会を中止し、分科会での提案を延期せざるを得ませんでした。

今年度も同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から8月6日に前橋市総合福祉会館で予定していた研究大会を中止し、本研究会誌のよる書面提案となりました。提案を準備していただいた方々には、この紙面掲載により、発表に機会としていただくこととなります。同様に講演を予定していただいていた群馬県教育委員会義務教育課指導主事 前島 隆宏 様には、今後の動向等について寄稿していただきました。

結びに、群馬の子供たちの確かな学びのために本研究会誌に収録された情報が参考となり、授業実践に活用されることを願うとともに、本会の造形美術教育振興にご理解、ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

図画工作科・美術科における学習指導要領改訂のポイントと 学習評価及びICTの活用について

群馬県教育委員会義務教育課

指導主事 前島 隆宏

はじめに、日頃より群馬県の造形美術教育に対し、創意工夫をしながら真摯に取り組んでくださっている皆様に心より感謝申し上げます。

さて、御存知のとおり、昨年度の小学校に引き続き、今年度は、中学校において学習指導要領が全面实施となりました。今回の改訂では、図画工作科・美術科に限らず、各教科等で育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されました。そのような中、図画工作科・美術科の教科の目標を見ると、小学校では生活や社会の中の形や色などと、中学校では美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指すとあります。美術館などで美術作品を見たときによさや美しさを感じることもあるでしょうし、家族や友達の誕生日にイラスト入りのメッセージカードを送ったり、文房具を買うときに形や色をよく見て選んだり、その瞬間は数限りなくあると思います。つまり、図画工作科・美術科で育成する資質・能力は、人が豊かに生きていく上で、大変重要であるということです。したがって、授業を構想するに当たり、まずは、「この授業で身に付けさせたい資質・能力は何なのか」を明確にさせていただくことが大切だと考えます。

このような資質・能力の育成を目指すためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことがポイントとなります。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める鍵となるのは、「造形的な見方・考え方」をいかに働かせるかということです。そのためには、造形的な視点を与えることはもちろんですが、子供たちの思いや主題を生み出すことを大切にしてほしいと思います。日常生活や社会と関連付けた題材の設定や、地域の素材や人材を活用するなど、子供たちが主体的に課題に取り組めるよう、様々な工夫をしていくことが考えられます。また、対話については、作品やモチーフとの対話も考えられますが、友達や地域の作家など、人との対話を位置付け、形や色彩などの造形的な視点を基に意見交流を行うことで、子供たちが自己の表現等に生かせたら素晴らしいと思います。

そして、資質・能力が身に付けられたかをしっかりと見取り、子供たちの学習改善につなげるなど、指導と評価の一体化を図る必要があります。今回の改訂に伴う学習評価の改善の基本的な方向性としては、「①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」とされています。これらのことを踏まえ、実際の授業の中で、指導と評価の一体化をどのように意識して取り組めばよいかを、考えていく必要があります。評価したことを指導に生かしていくためには、教師が子供たちの活動や変容を捉えることが求められます。どの過程のどの場面で児童生徒の様子を見取っていくのか、題材構想の中で指導と評価の計画を立て、イメージしておくことが大切です。また、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選しながら適切に位置付ける必要があります。いずれにしても、完成した作品の出来映えだけでなく、プロセスをしっかりと評価していくことが大切であると考えます。作品の評価ではなく、作品から子供たちの学びを読み取り、評価していく意識が大切であると考えます。

この度、GIGAスクール構想に伴う、1人1台端末の配備で教育現場が大きく変わり、図画工作科・美術科の授業においても例外ではありません。資料の提示や意見の共有、情報収集などのほか、写真や動画などの映像メディアによる表現においても、ICTを活用することができます。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、ICTの活用は重要であると考えます。また、完成するまでの作品を記録に残し、振り返りや学習評価に活用することも考えられます。その際、ICTを活用する学習活動と、実物を見たり実際に対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取らせる学習活動を、題材のねらいに応じて組み合わせ、効果的な指導を考えていただけたらと思います。

子供たち一人一人の世界観が表現できる図画工作科・美術科の教科特性を大切にし、子供たちが豊かな人生を歩めるよう、今後も造形美術教育が充実・発展することを心から願っております。

分科会提案者等一覧

【分科会】 テーマ	担当地区	氏 名	R 3 勤務校
【第1分科会】 創造活動の基礎・基本	伊勢崎・佐波	櫻井理絵子	玉村町立中央小学校
		宮崎 正代	伊勢崎市立第四中学校
【第2分科会】 素材との豊かな出会い (素材:材料・時間・空間・場)	前橋	堀込 恵	前橋市立原小学校
		柳澤 義久	前橋市立第五中学校
【第3分科会】 自分らしい表現 (表現:表す・感じる・ひろがる)	藤岡多野富岡甘楽 安中	大塚 裕貴	群馬大学共同教育学部附属小学校
		永田 光	富岡市立南中学校
【第4分科会】 見方・感じ方を広げる (鑑賞:見る・感じる・ふくらむ)	桐生・みどり	生形 裕子	みどり市立大間々東小学校
		本木 由実	桐生市立相生中学校
【第5分科会】 造形活動でつながる (人と・地域と・環境と)	高崎	齊田 弘子	高崎市立岩鼻小学校(置籍)
		小林 英史	高崎市立新町中学校

関ブロ静岡大会 群馬県提案者

テーマ 【分科会】	地区	氏 名	R 3 勤務校
中学校 かかわりつながる造形 A表現 【第5分科会 b】	群馬県	南雲 優人	群馬県沼田市立白沢中学校

群馬県小学校中学校教育研究会

WEB ページ

<http://gun-jsg.edu.gunma-u.ac.jp/~jsg-root/>

QR コード



研究会誌 No57

発行日

令和4年1月26日

発行者

群馬県小学校中学校教育研究会 小学校図画工作部会 代表 間々田 博
中学校美術部会 代表 吉野 忠義
群馬県造形美術教育研究会 会長 間々田 博

後援

群馬県教育委員会

事務局

沼田市立多那中学校 内

〒378-0317 沼田市利根町多那732

事務局代表 福島 栄典

TEL 0277-45-2914

印刷所

有限会社 マルエー印刷

〒371-0016 前橋市城東町4-21-9

TEL 027-232-1684